

# 卒業研究

責 任 者 : 名取 泰博 教授、駒野 宏人 教授  
担当講座（科） : 衛生化学講座、神経科学講座、構造生物薬学講座、有機合成化学講座、天然物化学講座、機能生化学講座、細胞病態生物学講座、微生物薬品創薬学講座、生体防御学講座、分子細胞薬理学講座、創剤学講座、薬物代謝動態学講座、分子生物薬学講座、臨床医化学講座、薬剤治療学講座

実 習 180 時間  
単 位 8 単位

## 学 年

5・6 学年 通期

## 学習方針

### 基本理念：

課題研究で学んだ基礎的な技術や知識を生かして、より専門的な研究を長期間に渡り行う。この卒業研究を通して、最先端の創薬研究の現状を理解し、研究心のある薬剤師の育成を目指す。また、研究上で遭遇する様々な困難や苦勞から問題解決能力を身につけ、研究室における対人的な関係から社会的な協調性を養成する。さらに、各講座が主催するオープン形式の研究セミナーに参加して、発表技能、態度、コミュニケーション技術などを学ぶ。卒業研究に関する論文作成、口頭発表などを通して実験結果のまとめ方やプレゼンテーションを行う能力を身につける。

## 成績評価方法

研究活動を主体的に行い、学部主催の研究発表会で研究内容を発表するとともに卒業論文を提出することをもって評価する。

## (構造生物薬学講座)

責 任 者 : 野中 孝昌 教授  
担当講座 (科) : 構造生物薬学講座

### 一般目標 (GIO) :

構造は科学の基礎であり、生命の原理を知る上での重要な手がかりとなる。構造とそこから導かれる物性は、医薬品開発の基礎ともなる。生体内で水の次に多いタンパク質の構造と機能を解明することは、医薬品開発のみならず、生命活動の理解の点でも重要な鍵を握る。本卒業研究では、課題研究で学んだ基礎的な解析手法を確実に身につけること、創薬上重要なタンパク質の結晶および溶液構造の立体構造解析、および構造に基づく新薬のデザイン手法の学習を目標とする。

### 到達目標 (SBOs) :

1. 実験計画を立てることができる。
2. 構造および機能解析に適したタンパク質試料を調製することができる。
3. タンパク質の結晶化条件をスクリーニングすることができる。(☆)
4. タンパク質の結晶化条件を最適化することができる。(☆)
5. X線結晶構造解析における位相問題を解決することができる。(☆)
6. 電子密度分布図に合わせてタンパク質分子を構築することができる。(☆)
7. 結晶構造の精密化計算を行うことができる。(☆)
8. データベースを利用して情報を収集することができる。
9. 分子動力学計算法を説明できる。(☆)
10. タンパク質のデザイン手法の概略を説明できる。(☆)
11. タンパク質の構造と機能の相関を説明することができる。(☆)
12. タンパク質の構造に基づく創薬について概説することができる。(☆)
13. 実験に基づいて考察し、発表することができる。

### 実習日程

5年次については、実務実習実施中の学生以外の者を対象とする。

なお、実務実習の期間は以下のとおり。

I期 グループA、B : 平成23年5月16日(月)～7月29日(金)

II期 グループB、C : 平成23年9月5日(月)～11月18日(金)

III期 グループA、C : 平成24年1月10日(火)～3月26日(月)

曜	時限	コマ数	担 当 者	内 容
月 ～ 金	1 ～ 4	60	野中 孝昌 教授	創薬上重要なタンパク質にターゲットを絞り、X線結晶構造解析により立体構造を明らかにする。その過程でバイオインフォマティクス全般に対する知識と技術を身につける。タンパク質の立体構造から可能な限りの情報を引き出すための技能を養い、それを用いたプレゼンテーション技術を学習する。

曜	時限	コマ数	担当者	内 容
月 ～ 金	1 ～ 4	60	関 安孝 講師	タンパク質の溶液X線散乱データを、分子モデリング、分子動力学計算と組み合わせて、溶液中での構造生物学的研究を行う。また、ホモロジーモデリングやリガンド・ドッキング計算を行い、立体構造に基づく新薬のデザイン手法を学習する。
月 ～ 金	1 ～ 4	60	阪本 泰光 助教	創薬や食品工業上で重要なタンパク質をターゲットとして大量発現系の構築、精製したタンパク質を利用した機能解析およびリガンド等との複合体や変異体のX線結晶構造解析を行う。得られた情報を基に立体構造と機能の相関について議論、考察し外部に発信することによって、自ら研究計画を立案、実行し問題を解決する能力を身につけ、社会に貢献できる薬剤師としての基礎を形成する。
月 ～ 金	1 ～ 4	60	毛塚 雄一郎 助教	創薬上重要なタンパク質を大量調製し、立体構造をX線結晶構造解析により明らかにする。タンパク質の立体構造から可能な限りの情報を引き出すための技能を養う。得られた結果をまとめ、展開し、プレゼンテーションする技術を学ぶ。

#### 教科書（教）・参考図書（参）・推奨図書（推）

	書 名	著者名	発行所	発行年
参	構造生物学：原子構造からみた生命現象の営み	樋口 芳樹、中川 敦史	共立出版 (定価 3,700 円)	2010
参	タンパク質計算科学：基礎と創薬への応用	神谷 成敏他	共立出版 (定価 4,800 円)	2009
参	実験化学講座 11 物質の構造 III 「回折」	日本化学会 編	丸善 (定価 8,700 円)	2006

#### 授業に使用する機器・器具と使用目的

使用区分	機器・器具の名称	台数	使用目的
実習用	プロジェクター (ACER、H5360)	1	スライドの投影のため
〃	高輝度X線発生装置 (リガク)	1	X線回折実験
〃	防X線カバー (リガク)	1	X線回折実験
〃	空冷循環式送水装置 (リガク)	1	X線回折実験
〃	単結晶X線構造解析装置 (リガク、R-AXIS-RAPID ii)	1	X線回折実験

使用区分	機器・器具の名称	台数	使用目的
実習用	4℃チャンバー（窓付） （島津理化）	1	結晶保存
〃	試料観察用CCDカメラ （オリンパス）	1	結晶観察
〃	デジタル一眼レフカメラ （Canon、EOS Kiss X3）	1	結晶観察
〃	超低温フリーザー （サンヨー、MDF-C8V）	1	試料保存
〃	マイクロ冷却遠心機 （久保田商事、Model3700）	1	試料調製
〃	超純水装置 （ザルトリウス、アリウム 611VF）	1	試料調製
〃	高速冷却遠心機 （日立）	1	試料調製
〃	製氷機 （ホシザキ、FM-120F）	1	試料冷却
〃	ドラフトチャンバー （島津理化、CBR-Sc15-F）	1	排気処理
〃	DNA シーケンサー （ABI、3130x1-200）	1	DNA シーケンス解析
〃	パソコン （SONY、VPCEA2AFJ）	10	データ解析

## (有機合成化学講座)

責任者 : 畠中 稔 教授  
担当講座(科) : 有機合成化学講座

### 一般目標 (GIO) :

医薬品の多くは合成された有機化合物であり、生体の中で特定の生体分子(蛋白質など)に選択的に結合して活性を発現する。有機合成化学講座では、有機化学を基盤においてこの仕組みを解析・理解し新しい分子の設計と化学合成を行うことによって新しい薬作りを目指している。天然に存在する生理活性物質を範とした有効な化合物の創製、および合成有機低分子による細胞情報伝達系の制御を基盤とする創薬を主たる研究課題とする。卒業研究ではこれらの研究課題に関連したテーマを選び学生と相談して決める。

### 到達目標 (SBOs) :

1. 英語論文を読み、内容を説明できる。
2. 文献記載の実験方法にしたがって、自ら実験装置を組み実験を実施することができる (☆)。
3. 生成物を分離精製することができる (☆)。
4. 分析機器を使って化学構造を決定することができる。
5. 実験結果を考察し、次に必要な実験を教員と議論することができる (☆)。
6. 研究課題の結果を論文としてまとめ、発表することができる (☆)。

### 実習日程

5年次については、実務実習実施中の学生以外の者を対象とする。

なお、実務実習の期間は以下のとおり。

I期 グループA、B : 平成23年5月16日(月)～7月29日(金)

II期 グループB、C : 平成23年9月5日(月)～11月18日(金)

III期 グループA、C : 平成24年1月10日(火)～3月26日(月)

曜	時限	コマ数	担当者	内容
月 ～ 金	1 ～ 4	60	畠中 稔 教授	新しい医薬品の創製を目指した有機合成研究を行う。必要な文献を検索して計画性、および実験遂行能力を身に付ける。実験結果を考察しまとめて討論しプレゼンテーションする能力を養う。
月 ～ 金	1 ～ 4	60	河野 富一 准教授	合成有機低分子を基軸とした生体機能解明ツールの開発、および医薬のリード・シード化合物の創製を目的とした医薬品合成化学研究に取り組む。創薬に向けた実践的な医薬分子設計や、コンビナトリアルケミストリーなどの最先端有機合成手法について学ぶとともに、可能な限り生物活性評価も行う。グループ討論等を通じて、有機合成化学および創薬に関して最新の研究動向も常に探る。
月 ～ 金	1 ～ 4	60	辻原 哲也 助教	新規なヘテロ環化合物の合成と生物活性物質への展開を軸としたテーマの研究を行う。この研究を通じて、最新の有機合成化学手法、研究成果のまとめ方、および、聴く人を意識したプレゼンテーションの方法を学ぶ。

曜	時限	コマ数	担当者	内 容
月 ～ 金	1 ～ 4	60	稲垣 祥 助教	新しい医薬品の創製を目指した有機合成研究を行う。必要な文献を検索して計画性、および実験遂行能力を身に付ける。実験結果を考察しまとめてプレゼンテーションする能力を養う。

#### 教科書（教）・参考図書（参）・推奨図書（推）

	書 名	著者名	発行所	発行年
参	若手研究者のための有機合成ラボガイド	山口 素夫	講談社 (定価 4,200 円)	2010
参	実験化学講座 19-26 巻 第 5 版	日本化学会 編	丸善 (定価 77,500 円)	2004
参	化学を学ぶ人のレポート・論文・発表マスターガイド	今田 泰嗣・大嶋 孝志・廣瀬 敬治	化学同人 (定価 1,800 円)	2010

#### 授業に使用する機器・器具と使用目的

使用区分	機器・器具の名称	台数	使用目的
実習用	ロータリーエバポレーター (EYELA, N-1000S-W)	6	有機溶媒の留去
〃	ダイヤフラムポンプ (EYELA, DTC-21)	6	有機溶媒の留去
〃	冷却水循環装置 (EYELA, CCA-113)	6	有機溶媒の留去
〃	マグネチックスターラー (島津, SST-175)	6	反応溶液の攪拌
〃	ウォーターバス (石井理化, E-3)	10	溶液の加温
〃	アイラジャッキ (EYELA, EJ-B 型 116130)	22	反応装置組み立て用
〃	融点測定装置 (ヤマト科学, MP-21)	1	融点測定
〃	TLC 用 UV ランプ (ケニス, 3-115-917)	2	化合物の検出
〃	油回転真空ポンプ (ケニス, TSW-50 (50Hz))	2	化合物の乾燥
〃	高速液体加圧グラブシステム一式 (日本分光, PU-2089)	2	化合物の分析
〃	リサイクル型分取高速液体クロマトグラフシステム一式 (日本分析工業 LC-9102)	1	化合物の分離精製
〃	電気定温乾燥器 (ケニス, 3-137-517)	2	器具の乾燥
〃	超音波洗浄器 (島津, US-106)	1	器具の洗浄
〃	高精度電子天秤 (池本理化, 573-141-01)	5	秤量
〃	高精度電子天秤 (池本理化, 573-142-12)	2	秤量
〃	フーリエ変換赤外分光光度計 (日本分光 FT/IR-4100+ART PR410-S)	1	構造決定
〃	紫外可視分光光度計 (日本分光 V-650DS)	1	構造の決定
〃	有機合成用攪拌振とう機 (EYELA, CCX-1000)	1	溶液の攪拌・振とう
〃	ノート型パソコン	5	構造式描画
〃	簡易乾燥器 (ケニス, 3-137-561)	1	TLC プレートの乾燥
〃	ステンレスシェルフワゴン (島津, W2-S4609S)	2	実験機器置き
〃	ドラフト (島津)	4	有機溶媒の蒸気の排気

## (天然物化学講座)

責 任 者 : 藤井 勲 教授  
担当講座 (科) : 天然物化学講座

### 一般目標 (GIO) :

天然物化学講座においては、生理活性天然物の探索、化学構造決定や、生合成について、有機化学を基盤として、生化学や分子生物学の研究手法も交えて天然有機化合物について総合的に研究する。なかでも微生物や植物が天然有機化合物を作り出す生合成の仕組みや制御機構を明らかにして、その化合物生産能力を積極的に利用した「生物合成」の新しい方法論の確立とその応用を目指している。卒業研究においては、当講座の研究分野と各学生の研究に対する興味を考慮して具体的な研究テーマを決める予定である。

### 到達目標 (SBOs) :

1. 天然有機化合物に関する基礎知識の確認、および発展的知識を学ぶ (☆)。
2. 天然物化学実験で必要な実験手技・機器操作を習得し、実施することができる。
3. 天然物化学に関する研究テーマを理解し、必要な実験計画を立案することができる。
4. 立案した実験計画に基づき、実験を遂行することができる。
5. 実験で得られたデータ・結果を総合的に考察し、取りまとめて説明することができる。
6. 研究テーマに関する文献情報を収集し、セミナーなどで紹介することができる。
7. 学内外の学会・講演会・研究会などに積極的に参加し、自ら学ぶ姿勢を身につける。
8. 実験で得られた結果をまとめ、卒業研究として発表し、卒業論文を完成させる。

### 実習日程

5年次については、実務実習実施中の学生以外の者を対象とする。

なお、実務実習の期間は以下のとおり。

I 期 グループA、B : 平成23年5月16日(月)～7月29日(金)

II 期 グループB、C : 平成23年9月5日(月)～11月18日(金)

III 期 グループA、C : 平成24年1月10日(火)～3月26日(月)

曜	時限	コマ数	担 当 者	内 容
月 ～ 金	1 ～ 4	60	藤井 勲 教授	微生物、特に糸状菌がポリケタイドなどの天然有機化合物を作り出す生合成の仕組みや制御機構を遺伝子、酵素、化合物レベルで総合的に明らかにし、その化合物生産能力を積極的に利用した「生物合成」の新しい方法論の確立を目指す。研究を通じて、実験技法の習得だけではなく、積極的に取り組む姿勢や、情報発信能力なども身につける。
月 ～ 金	1 ～ 4	60	林 宏明 准教授	有機化学、生化学、分子生物学の知識と技術を総合的に応用して、成分レベル、酵素レベル、遺伝子レベルで高等植物の二次代謝の多様性に関して研究を行なう。各レベルからの情報を基盤として、新たな物質生産系の開発を目標として、研究計画の立案、実施、得られたデータの解析法などを実践的に学ぶ。

曜	時限	コマ数	担当者	内 容
月 ～ 金	1 ～ 4	60	浅野 孝 助教	ヒガンバナアルカロイドを効率よく生産する培養細胞を植物から誘導し、抗アルツハイマー病成分が簡単かつ大量に得られるシステムの構築を行なう。さらに、ヒガンバナアルカロイドの生合成メカニズムを遺伝子レベルで明らかにすることにより、天然には存在しない新規アルツハイマー病治療薬の創製を目指す。
月 ～ 金	1 ～ 4	60	橋元 誠 助教	糸状菌が生産するポリケタイド化合物の生合成、とくに修飾段階に関与する酵素遺伝子の機能解析を行う。候補遺伝子を麹菌や酵母、大腸菌中で発現させ、生成物の確認や基質の変換をHPLC等で解析する。

#### 教科書（教）・参考図書（参）・推奨図書（推）

	書 名	著者名	発行所	発行年
参	Medicinal natural products : a biosynthetic approach 3rd ed	Paul M. Dewick	Wiley (定価 7,527 円)	2009
参	パートナー天然物化学	海老塚、森田 編	南江堂 (定価 6,000 円)	2007
参	天然医薬資源学 第4版	竹田 忠紘 他編	廣川書店 (定価 7,140 円)	2010

#### 授業に使用する機器・器具と使用目的

使用区分	機器・器具の名称	台数	使用目的
実習用	ドラフトチャンバー（島津理化、CBR-Sc15-F）	2	揮発性有機溶媒使用のため
〃	エバポレーターシステム（東京理化、SYS09093）	2	溶媒留去のため
〃	電子天秤（0.001g）（島津理化、UX620H）	1	試薬秤量のため
〃	電子天秤（0.1mg）（島津理化、AUW220）	1	試薬秤量のため
〃	超低温フリーザー（三洋電機バイオシステム、MDF-U52V）	2	サンプル保管のため
〃	バイオメディカルフリーザー（三洋電機バイオシステム、バイオメディカルフリーザー）	2	サンプル保管のため
〃	研究用保冷庫（三洋電機バイオシステム、MPR-1410）	2	サンプル保管のため
〃	バイオクリーンベンチ（三洋電機バイオシステム、MCV-B131S）	2	無菌操作実験のため
〃	オートクレーブ（トミー精工、SX-500）	2	無菌処理のため
〃	微量遠心機（トミー精工、MX-301）	3	サンプル遠心のため
〃	冷却遠心機（久保田商事、7780）	1	サンプル遠心のため
〃	卓上遠心機（久保田商事、2420）	1	サンプル遠心のため
〃	HPLC一式（島津、Prominence）	1	成分分析のため

使用区分	機器・器具の名称	台数	使用目的
実習用	PCR (タカラバイオ、ThermalCyclerDiceGradient)	3	遺伝子実験のため
〃	ゲル撮影装置 (東洋紡、FAS-III201)	1	遺伝子実験のため
〃	pH メータ (堀場製作所、F-52)	1	pH 調整のため
〃	インキュベートボックス (タイテック、M-280)	2	微生物培養のため
〃	凍結乾燥システム (東京理化、SYS10019)	1	サンプル乾燥のため
〃	真空ポンプ (東京理化、TSW-300)	2	サンプル乾燥のため
〃	卓上型振とう恒温槽 (タイテック、パーソナル-11・SD セット)	2	微生物培養のため
〃	ユニット恒温槽 (タイテック、サーモミンダ SD-B)	2	酵素反応のため
〃	定温恒温乾燥機 (東京理化、NDO-451SD)	1	器具乾燥のため
〃	超音波洗浄器 (東京理化、WT-200-M)	2	器具洗浄のため
〃	恒温振とう培養機 (タイテック、BR-3000 L F 二段式)	1	植物細胞培養のため
〃	恒温振とう培養機 (TAITEC、BL3000LF)	1	微生物の培養
〃	中型振とう培養機 (タイテック、BR-43FL)	1	微生物培養のため
〃	恒温振とう培養機 (タイテック、BR-42FL.MR)	1	微生物培養のため
〃	グロースチャンバー (三洋電機、MLR-351)	1	植物培養のため
〃	顕微鏡 (オリンパス、CX31)	1	微生物の観察
〃	マイクロプレートミキサー (エムエス機器、SI-0405)	1	溶液攪拌のため
〃	DNA シーケンサー (ABI, 3130XL-200)	1	塩基配列の分析
〃	超伝導NMR (500 MHz) (JEOL)	1	化合物の構造解析のため
〃	リアルタイムPCR (ABI PCR システム 7500-1)	1	mRNA 発現量の解析
〃	旋光計 (日立 SEPA-300)	1	旋光度の測定
〃	LC-TOFMS (島津製作所)	1	化合物の分析、構造解析
〃	iMac (Apple)	3	データ分析、整理

## (衛生化学講座)

責 任 者 : 名取 泰博 教授  
担当講座 (科) : 衛生化学講座

### 一般目標 (GIO) :

疾患の予防・診断・治療における新しい方法の開発には、その病態の理解が不可欠である。衛生化学講座では、生活習慣病や腎臓病などの慢性疾患に対する新しい予防・診断・治療法の開発への貢献を目指し、分子レベルの解析や病理形態学などの様々な角度から、病態解明の研究を進めている。卒業研究では、本講座における研究の一翼を担って、研究の立案から実施、考察、成果のまとめまでを体験することにより、疾患の病態解析研究や創薬研究の考え方や進め方を理解するとともに、討議や発表を通して、社会人に必要なコミュニケーション能力を身につけることを目標とする。

### 到達目標 (SBOs) :

1. 研究課題達成に必要な情報を収集し、研究計画を立案することができる。(☆)
2. 生体試料の取扱い及びその分析、生化学実験、組み換え DNA 実験、培養細胞実験、動物実験、病理学解析、疫学解析などの中から、課題達成に必要な手技や手法を習得し、実施できる。(☆)
3. 統計学的手法を用いて研究結果を解析することができる。(☆)
4. 研究結果を考察し、その成果について説明及び討議をすることができる。(☆)
5. 研究成果を卒業論文としてまとめ、ポスターあるいは口頭で発表する。(☆)
6. 研究室内外のセミナーなどにおいて、発表内容を理解し、討議に参加することができる。(☆)
7. 薬学及び医療分野の英語文献を理解し、その内容を説明することができる。(☆)

### 実習日程

5年次については、実務実習実施中の学生以外の者を対象とする。

なお、実務実習の期間は以下のとおり。

I期 グループA、B：平成23年5月16日(月)～7月29日(金)

II期 グループB、C：平成23年9月5日(月)～11月18日(金)

III期 グループA、C：平成24年1月10日(火)～3月26日(月)

曜	時限	コマ数	担 当 者	内 容
月 ～ 金	1 ～ 4	60	名取 泰博 教授	腎疾患や生活習慣病の実験動物モデル、培養細胞系、臨床検体などの中から、研究目的の達成のために適切な対象を選び、必要な手技・手法を習得し、実践する。さらにその結果を的確に考察し、まとめ、発表する方法を学ぶ。併せて、論文や講演の内容を理解し、要点をつかむ能力を身につける。
月 ～ 金	1 ～ 4	60	杉山 晶規 准教授	腎疾患や血管新生異常症の原因や予防に関わる因子の探索・同定を目的とし、生化学的分析法や遺伝子工学的手法を利用した評価系を確立し、これら評価系を用いた研究を実践し、病因解析や疾病予防の研究法を身につける。さらに、得られたデータの解析、考察、発表の仕方を学ぶ。

曜	時限	コマ数	担当者	内 容
月 ～ 金	1 ～ 4	60	米澤 正 助教	腎疾患の発症、進展、治療機構に関与する因子について、腎臓における脂質代謝に着目しながら、その役割を生化学的、遺伝子工学的手法を用いて解明する。さらにその過程で、手法、結果に関する考察とディスカッションを重ねることによって問題解決能力を身につける。
月 ～ 金	1 ～ 4	60	川崎 靖 助教	腎臓病や生活習慣病などの慢性疾患は血管新生異常の病態を伴うことが知られている。これらの疾患に対する新たな診断・治療法の開発を目的とし、生活習慣病の実験動物モデルや培養細胞の取り扱い等の実験技術を習得・実践する。併せて、研究結果の解析を客観的かつ理論的に考察する能力を身につける。

#### 教科書（教）・参考図書（参）・推奨図書（推）

	書 名	著者名	発行所	発行年
参	病態生理・生化学Ⅱ：病態生理・生化学各論	井上 圭三 ほか 編	共立出版 (定価 5,500 円)	1998

#### 授業に使用する機器・器具と使用目的

使用区分	機器・器具の名称	台数	使用目的
実習用	ドラフトチャンバー (島津理化、CBR-Sc15-F)	1	薬品を安全に取り扱うため
〃	乾熱滅菌器 (島津理化、STAC-P450K)	1	器具の滅菌を行うため。
〃	クリーンベンチ (三洋電機、MCV-B91F)	2	無菌操作を行うため
〃	倒立顕微鏡 (オリンパス、IX71N-22FL/PH)	1	培養細胞等を観察するため
〃	倒立型顕微鏡落射蛍光装置 (オリンパス、IX2N-FL-1)	1	培養細胞等を観察するため
〃	CO <sub>2</sub> 培養器 (三洋電機、MCO-18AIC)	2	動物細胞を培養するため
〃	凍結マイクロトーム (Leica、Leica CM1950)	1	凍結組織切片作成のため
〃	インビトロシェーカー (タイテック、Wave-Sl slim)	1	混合反応を行うため
〃	画像取込み装置 (ATTO、AE-6932GXCF-U)	1	電気泳動結果の解析のため
〃	発光画像取込装置 (富士フィルム、LAS4000mini)	1	化学発光画像解析のため
〃	振とう培養器 (東京理化、FMC-1000)	1	微生物培養実験のため
〃	バイオシェイカー (東京理化、MMS-3010)	1	微生物培養実験のため
〃	レーザービームプリンタ Satera (Canon、LBP5400)	1	研究資料の印刷のため

## (機能生化学講座)

責 任 者 : 二井 将光 教授

担当講座(科) : 機能生化学講座

### 一般目標 (GIO) :

創薬研究に於いて、生命現象の基礎を明らかにし薬物の作用を評価することが、重要な第一段階である。卒業研究では、破骨細胞の分化、リソソームのプロトンポンプ、細胞内小胞輸送等の機構を解明し、創薬を目指す。以上の目標に向け、培養細胞を用いた実験系を駆使する。また、酵素をより深く理解するため、酵素一分子を可視化して活性を測定し、詳細な酵素反応機構を解明する。

### 到達目標 (SBOs) :

1. 細胞の分化、プロトンポンプ、生体分子の一分子観察について研究の現状を理解し、新しい視点を持つことができる。
2. 最先端の生化学機器・顕微鏡の取扱や手法を習得し、同時に機器の組み立てができる。
3. 実験結果の解釈や研究の方向性について主体的に議論することができる。
4. 研究セミナーにおいてコミュニケーションの技術を学ぶ。
5. 教員や学生同士で協力し合い、互いの研究を高める態度を身につける。
6. 研究をまとめて発表する技術を習得する。

### 実習日程

5年次については、実務実習実施中の学生以外の者を対象とする。

なお、実務実習の期間は以下のとおり。

I期 グループA、B : 平成23年5月16日(月)～7月29日(金)

II期 グループB、C : 平成23年9月5日(月)～11月18日(金)

III期 グループA、C : 平成24年1月10日(火)～3月26日(月)

曜	時限	コマ数	担 当 者	内 容
月 ～ 金	1 ～ 4	120	二井 将光 教授	薬物の生化学を意識し、細胞内オルガネラの動態、形成、酵素分子や情報因子の可視化等を研究する。現在どのような創薬研究が求められているかを踏まえ、既存の技術にとどまらず、創造的な実験に挑戦する。さらに、研究成果をまとめ、理解しやすくプレゼンテーションする能力を身につける。
月 ～ 金	1 ～ 4	60	中西 真弓 准教授	遺伝子工学的手法と一分子観察系を用いて、酵素の反応機構を解析することで、酵素一分子を可視化する最先端の手法や特殊機器の取扱方法を習得する。研究成果をまとめて発表し、有意義な議論をする能力を身につける。
月 ～ 金	1 ～ 4	60	關谷 瑞樹 助教	変異を持つ酵素の機能を解析し、酵素反応機構の詳細を明らかにすることを旨とする。また、破骨細胞の分化や骨吸収を阻害する薬物のスクリーニングを行い、新たな骨粗鬆症治療薬のシード化合物や分子標的を探索する。本研究を通じて、創薬化学と酵素化学の知識を持った薬剤師の育成を目指す。

曜	時限	コマ数	担当者	内 容
月 ～ 金	1 ～ 4	60	後藤 奈緒美 助教	結合蛋白質の変化、蛋白質の翻訳後修飾などによる酵素の細胞内局在や活性の制御機構について研究を行うことにより、生命現象の細胞生化学的理解を深める。また、酵素の局在や活性を可視化することにより、これらを制御する化合物のスクリーニング系構築を目指す。
月 ～ 金	1 ～ 4	60	岡本 晴子 助教	細胞外からの刺激に伴う細胞内の膜酵素の動態を解析し、細胞内制御機構を明らかにする。また、研究によって得られる知見の新しさ、独創性を深く理解し、創薬研究に応用できるような学生の育成を目指す。

#### 教科書（教）・参考図書（参）・推奨図書（推）

	書 名	著者名	発行所	発行年
参	Handbook of ATPases : biochemistry, cell biology, pathophysiology	二井 将光、和田 洋、J. Kaplan 編集	Wiley-VCH Verlag GmbH & Co. KGaA (定価 16,534 円)	2004
推	「人と学問選書」生物のエネルギーを探る	二井 将光	学会出版センター (定価未定)	2011

#### 授業に使用する機器・器具と使用目的

使用区分	機器・器具の名称	台数	使用目的
実習用	パソコン (DELL、Inspiron1545)	5	英語文献検索、データ解析
〃	研究用ステージ固定式成立顕微鏡	1	タンパク質の一分子観察
〃	超高速デジタルビデオカメラシステム	1	タンパク質の一分子観察撮影
〃	ライブセルタイムラプスシステム	1	生細胞のライブイメージング
〃	分離用超遠心機	2	細胞抽出物の分離・精製
〃	In Vitro 遺伝子導入装置	1	細胞への遺伝子導入
〃	グロースチャンバー	1	植物の培養
〃	画像解析装置 (フジフィルム、LAS-3000)	1	タンパク質の検出
〃	マルチプレートリーダー (Wako TECAN、Infinite F500)	1	転写因子の活性測定 (化学発光)
〃	マルチプレートリーダー (モレキュラーデ バイス、SPECTRA MAX 190)	1	タンパク質の定量、酵素活性 測定 (吸光)
〃	DNA シーケンサー (ABI、3130xl-200)	1	塩基配列の確認
〃	DNA シーケンサー (ABI、310)	1	塩基配列の確認
〃	蛍光光度計 (日立、F-2500)	1	プロトンポンプ輸送活性の測定
〃	分光光度計 (日立、U-2810)	1	ATPase 活性の測定、タンパク 質および核酸の定量
〃	蛍光光度計 (日立、F-2500)	1	プロトンポンプ輸送活性の測定
〃	共焦点レーザー顕微鏡 (オリンパス、FV-1000)	1	蛍光標識した細胞の観察
〃	共焦点顕微鏡 (Carl Zeiss、LSM510 Meta)	1	蛍光標識した細胞の観察
〃	PCR サーマルサイクラー (AB、GeneAmp 9700)	2	PCR、酵素反応

## (細胞病態生物学講座)

責 任 者 : 北川 隆之 教授  
担当講座 (科) : 細胞病態生物学講座

### 一般目標 (GIO) :

細胞生物学、病態生化学、薬学実習 I、ならびに 4 年次課題研究等で学んだ薬学知識と技能、態度を基礎として、がんをはじめとするヒト疾患の背景と先端的な治療薬の開発について実践的に学ぶことを目標として、個別の研究テーマについて、実験科学的な自主的学習を行い、問題解決型基盤能力の向上と生涯学習の習慣を確立する。

### 到達目標 (SBOs) :

1. がん (悪性腫瘍) の発生と転移のしくみを説明できる。
2. がん遺伝子、がん抑制遺伝子の役割を説明できる。
3. がんの細胞生物学的特性を理解し、分子解析法を習得する。(☆)
4. がんの薬物療法の概要を理解し、新規治療薬の検索を試みる。(☆)
5. アレルギーや炎症反応に関与する生理活性物質の産生制御機構を理解し、分子生物学的な解析法を習得する。(☆)
6. 無菌操作と培養細胞、小動物の取扱いを習得する。
7. 学術データベース検索 (PubMed 等) によりの確な科学情報の収集ができる。(☆)
8. 実験課題のレポート作成、ならびに成果報告ができる。(☆)

### 実習日程

5 年次については、実務実習実施中の学生以外の者を対象とする。

なお、実務実習の期間は以下のとおり。

I 期 グループ A、B : 平成 23 年 5 月 16 日 (月) ~ 7 月 29 日 (金)

II 期 グループ B、C : 平成 23 年 9 月 5 日 (月) ~ 11 月 18 日 (金)

III 期 グループ A、C : 平成 24 年 1 月 10 日 (火) ~ 3 月 26 日 (月)

曜	時限	コマ数	担 当 者	内 容
月 ~ 金	1 ~ 4	60	北川 隆之 教授	ヒトがん細胞における糖輸送タンパク質の機能解析と新規ながん分子標的治療薬の探索研究
月 ~ 金	1 ~ 4	60	奈良場 博昭 准教授	アレルギーや炎症反応に関与する生理活性物質の産生制御機構を分子細胞生物学的に解析する。また、小動物を用いて、炎症性病態モデルを作成し、病態生理学的に解析する。
月 ~ 金	1 ~ 4	60	佐京 智子 助教	ヒト乳がん細胞株の悪性化 (浸潤・転移) 機構の解明と新規な分子標的タンパク質の探索研究
月 ~ 金	1 ~ 4	60	渡辺 勝 助教	がん細胞特有の糖代謝に着目した新規抗がん剤の探索とシグナル伝達経路の解析に関する研究を行う。主に培養細胞を用いて、ケミカルバイオロジー的手法による解析を行う。

教科書（教）・参考図書（参）・推奨図書（推）

	書名	著者名	発行所	発行年
参	細胞生物学	永田 一宏 他	東京化学同人 (定価 2,400 円)	2006
参	分子細胞生物学 第6版	H. Lodish, 他 監訳: 石浦章一他	東京化学同人 (定価 9,500 円)	2010
参	ワインバーグ がんの生物学	Robert A. Weinberg	南江堂 (定価 12,000 円)	2008

授業に使用する機器・器具と使用目的

使用区分	機器・器具の名称	台数	使用目的
実習用	ドラフトチャンバー (CBR-Sc15-F、島津理化)	2	試薬の調整など
〃	乾燥機 (MOV-212 (U)、三洋電機バイオシステム)	1	実験器具の乾燥
〃	PCR (9700G、ABI)	1	遺伝子の増幅など
〃	製氷器 (FM-120F、ホシザキ)	1	サンプルの保管など
〃	冷却高速遠心器 (日立)	2	試料の高速冷却遠心
〃	クリーンベンチ (MCV-131BNF、三洋電機バイオシステム)	1	細胞の培養等の無菌操作
〃	CO <sub>2</sub> インキュベーター (MCV18AIC(UV)、三洋電機バイオシステム)	1	細胞の培養
〃	オートクレーブ (LBS-325、トミー精工)	1	培養器具の滅菌など
〃	ディープフリーザー (-80℃) (MDF-392、三洋電機バイオシステム)	1	試料や試薬の超低温保存
〃	恒温インキュベーター (MIR-153、三洋電機バイオシステム)	1	大腸菌の培養
〃	4℃チャンバー (MPR-1410、三洋電機バイオシステム)	1	低温での実験操作や試薬の保管
〃	4℃フリーザー (MPR-312D(CN)、三洋電機バイオシステム)	1	培養試薬の冷蔵保存
〃	-30℃フリーザー (MDF-U537、三洋電機バイオシステム)	1	培養試薬の凍結保存
〃	位相差顕微鏡+冷却CCDカメラ (ツアイス)	1	培養細胞の観察と記録
〃	セーフティキャビネット (MHE131AJ、三洋電機バイオシステム)	1	無菌操作

## (微生物薬品創薬学講座)

責任者 : 上原 至雅 教授  
担当講座(科) : 微生物薬品創薬学講座

### 一般目標 (GIO) :

近年の化学療法では、病原体による病因メカニズムを生物学的に解明し、それに必須の因子を標的とした医薬品の開発が盛んに試みられている。本講座では主になん、感染症を対象にした分子標的創薬を志向した基礎研究を行う。すなわち細胞レベルでの評価系構築と微生物由来物質を中心としたスクリーニング、化学療法薬の標的分子の同定、作用メカニズムの解明を中心に研究を進める。卒業研究のテーマは当講座の研究分野と各学生が興味を持つ対象を相談して決める予定である。

### 到達目標 (SBOs) :

1. がん細胞や微生物などの増殖や増殖抑制を測定できる。
2. 化合物ライブラリーを適切に使用できる。
3. 化学療法剤の作用機構を説明できる。
4. 実験結果を正確に報告することができる。
5. プレゼンテーションを行うための技能と態度を身につける。

### 実習日程

5年次については、実務実習実施中の学生以外の者を対象とする。

なお、実務実習の期間は以下のとおり。

I期 グループA、B : 平成23年5月16日(月) ~ 7月29日(金)

II期 グループB、C : 平成23年9月5日(月) ~ 11月18日(金)

III期 グループA、C : 平成24年1月10日(火) ~ 3月26日(月)

曜	時限	コマ数	担当者	内容
月 ~ 金	1 ~ 4	60	上原 至雅 教授	微生物資源からの創薬に関連した研究テーマの中で実験を行う。がんや感染症の治療に対する有望な分子標的を選び出し、有効な評価法を確立し、微生物資源ライブラリーを対象にスクリーニングを実施する。得られた活性物質による生物機能の制御への応用を体験しながら、創薬研究の基礎、発表技能、態度、コミュニケーション技術などを学ぶ。
月 ~ 金	1 ~ 4	60	西谷 直之 講師	動物細胞の接着性に関する基礎研究を通して、新しい抗がん剤の標的因子の同定を目指す。また、得られた因子や他の細胞接着関連因子を標的とした抗がん剤のスクリーニング系を構築する。本研究を通して、最先端の創薬研究の一端を体験する。また、日常の議論やセミナーから、コミュニケーションや研究発表の技能と態度を身につける。
月 ~ 金	1 ~ 4	60	田中 亜路 助教	がん細胞の増殖メカニズムに着目した抗がん剤のスクリーニング系を確立する。がん細胞におけるシグナル伝達機構の理解を通して、研究の進め方やプレゼンテーションの方法などを総合的に学習する。

曜	時限	コマ数	担当者	内 容
月 ～ 金	1 ～ 4	60	津田 香代子 助教	がんや感染症について学び、新しい化学療法薬となる候補物質を見つけ出すための評価系を確立し、スクリーニングに応用する。活性物質の作用機序の解析を通して、がん細胞や微生物及び宿主細胞の生命現象を学習する。

#### 教科書（教）・参考図書（参）・推奨図書（推）

	書 名	著者名	発行所	発行年
参	化学療法学：病原微生物・がんと戦う	上野 芳夫・大村 智 監修、田中 晴雄・土屋 友房 編集	南江堂 (定価 5,500 円)	2009
参	ワインバーグ がんの生物学	Robert A. Weinberg	南江堂 (定価 12,000 円)	2008
参	がん分子標的治療研究 実践マニュアル	日本がん分子標的治療 学会 編集 曾根 三 郎・鶴尾 隆 編集代表	金芳堂 (定価 9,400 円)	2009

#### 授業に使用する機器・器具と使用目的

使用区分	機器・器具の名称	台数	使用目的
実習用	PC (HP、6000 Pro SF/CT7)	1	データ解析、検索、資料作成
〃	PC (ノート型) (HP、4720s/CT)	4	データ解析、検索、資料作成
〃	炭酸ガス培養装置 (三洋電機、MCO-18AIC (UV))	3	動物細胞の培養
〃	安全キャビネット (日本エアテック、BHC-1304IIA/B3)	3	微生物、動物細胞培養、無菌操作
〃	Milli-Q 純水製造装置 (日本ミリポア、Milli-Q Direct-Q)	1	試薬の調製
〃	振とう培養機 (タイテック、BR-40LF)	1	微生物培養
〃	-80℃フリーザー (三洋電機バイオシステム、MDF-592)	1	試薬、試料の保存
〃	プレートリーダー (ベックマンコールター、AD200)	1	酵素活性測定、タンパク質定量
〃	オートクレーブ (トミー精工、ES-315)	1	試薬、器具の滅菌
〃	オートクレーブ (トミー精工、ES-215)	1	試薬、器具の滅菌
〃	微量天秤 (ザルトリウス、LE2202S)	1	試薬の秤量
〃	上皿天秤 (ザルトリウス、CP622)	1	試薬の秤量
〃	位相差顕微鏡 (オリンパス、BX51+MP5Mc/OL)	1	動物細胞の観察
〃	高速冷却遠心機 (久保田商事、5910)	1	動物細胞の調製
〃	微量高速遠心機 (久保田商事、3740)	2	試薬、試料の調製
〃	ヒーティングブロック (ヤマト科学、HF200)	1	酵素活性測定実験
〃	電磁スターラー (アイシス、HP30125)	1	試薬の調製
〃	インビトロシェイカー (タイテック、Wave-SI)	2	酵素活性測定実験
〃	パワーステーション 1000VC (アトー、AE-8450CP)	2	電気泳動、ウエスタンブロット
〃	PHメーター (堀場製作所、F-52S)	1	試薬の調製

使用区分	機器・器具の名称	台数	使用目的
実習用	冷凍冷蔵庫 (三洋電機バイオシステム、MPR-214F)	1	試薬、試料の保存
〃	冷凍冷蔵庫 (ホシザキ、HRF-90XFT)	2	試薬、試料の保存
〃	バイオディカルリザー (三洋電機バイオシステム、MDF-538D)	1	試薬、試料の保存
〃	デジタルプロジェクター (キャノン、v-33913001m)	1	課題研究成果発表
〃	実体顕微鏡システム (オリンパス、SZX16-3151)	1	胚の観察
〃	顕微鏡用デジタルカメラ (日本ローパー、MP5.0-RTV-CLR-10C)	1	顕微鏡写真撮影
〃	デジタルカメラ 制御パソコン (富士通、FMV-A6260 FMVXNNY82)	1	顕微鏡写真撮影
〃	SNAP i. d. 蛋白質免疫検出装置 (日本ミリポア、WBAVDBASE)	1	蛋白質免疫検出
〃	手動マニピレーター (ナリシゲ、M-152)	1	マイクロインジェクション
〃	プーラー (ナリシゲ、PN-30)	1	マイクロインジェクション
〃	Neon Transfection System (ライテックロジックジャパン、MPK5000)	1	培養細胞への遺伝子導入
〃	電動マイクロインジェクター (ナリシゲ、IM-31)	1	マイクロインジェクション
〃	フインピペットナーバス 8ch100-1200 $\mu$ L (サモフィツィヤサイエンティフィック、46300800)	1	試薬の分注
〃	フインピペットナーバス 8ch30-300 $\mu$ L (サモフィツィヤサイエンティフィック、46300400)	1	試薬の分注
〃	GFP 用 LED 集光照明装置 (オプトコード、LEDGFP-WCCT)	1	胚の蛍光観察
〃	ハイブリダイゼーションインキュベーター (タイテック、40751)	1	in situ ハイブリダイゼーション
〃	スマートウォーターバス (アズワン、TB-2N)	1	細胞培養
〃	研究用保冷库 (三洋電機、MPR-720)	1	試薬、試料の保存
〃	高速冷却遠心機 (久保田商事、6200)	1	動物細胞、試料の調製
〃	冷却スラブ電気泳動装置ツインタイプ (バクワ、BE-240)	1	タンパク質電気泳動
〃	ミニトランスプロットセル (バイオラッド、170-3930JA)	1	ウエスタンブロット
〃	乾熱滅菌器 (三洋電機バイオシステム、MOV-112S)	1	器具の滅菌
〃	冷却低速遠心機 (日立、CR22G)	1	菌体回収
〃	ドラフトチャンバー (島津理化、CBR-Sc15-F)	1	試薬の調製
〃	遠心エバポレーター (S a v a n t)	1	試薬の調製
〃	液体クロマトグラフィー (島津製作所、prominence)	1	試薬の品質管理
〃	P C R (バイオラッド、DNAEngine PTC-200)	1	遺伝子増幅
〃	1 $\mu$ l 分光光度計 (ナノドロップテクノロジー、ND1000)	1	核酸濃度測定
〃	コールターカウンター (ベックマンコールター、Multisizer 3)	1	細胞計数
〃	UV トランスイルミネーター (アトー、AE-6933FXCF)	1	核酸の検出
〃	恒温槽 (タイテック、MM-10)	1	細菌培養、真菌培養
〃	投込式恒温装置 (ヤマト科学、BF200)	1	酵素反応、保温
〃	倒立型ルーチン顕微鏡落射蛍光装置 (オリンパス、CKX41N-FL)	1	細胞の観察
〃	共焦点レーザー顕微鏡 (オリンパス、FV1000)	1	蛍光染色像の観察
〃	超小型回転培養機 (タイテック、R T -30mini)	1	試料の調製

## (生体防御学講座)

責 任 者 : 大橋 綾子 教授  
担当講座 (科) : 生体防御学講座

### 一般目標 (GIO) :

生命の設計図「ゲノム」がどのように個体での生命活動に活かされているのかを理解する上で、モデル生物は非常に価値ある知識や有用な情報を我々に提供する医薬学研究材料である。そのような生物を用いた遺伝子の解析は、個人の遺伝情報に基づくテーラーメイド医療などの基礎となる概念を習熟する為にも重要である。当講座の卒業研究では、様々な微生物やストレスに対する生体防御、もしくは環境変化や薬物・生理活性物質への生体応答を研究対象として、遺伝学的・生化学的・細胞生物学的手法を駆使することにより、新しい生体防御システムの解明や個体での薬効評価系の構築を目標とする。更に、これらの研究から得られた遺伝子に関して、実践的にバイオインフォマティクスを活用し、研究結果を統合的に理解する。卒業研究のテーマは、講座の研究分野の中から学生の関心・興味を考慮して決定する。

### 到達目標 (SBOs) :

1. 医学・薬学研究における実験動物の意義を理解し、説明できる。
2. 薬学関連専門分野の英語文献を読解し、その内容を説明できる。(☆)
3. 研究課題を解決するための実験計画を立案することができる。(☆)
4. 滅菌、消毒、無菌操作を適切に行うことができる。
5. 実験試薬、培地を適切に調製し、取り扱うことができる。
6. 代表的な実験動物を適正に取り扱うことができる。(☆)
7. 顕微鏡を用いて、実験動物の組織や細胞を観察できる。
8. 遺伝子改変動物の遺伝子型の判定法を説明できる。(☆)
9. タンパク質の発現プロファイルやタンパク質間相互作用を解析する技術を概説できる。(☆)
10. バイオインフォマティクスについて説明できる。(☆)
11. 実験から得たデータを総合的に考察し、発表することができる。(☆)

### 実習日程

5年次については、実務実習実施中の学生以外の者を対象とする。

なお、実務実習の期間は以下のとおり。

I期 グループA、B：平成23年5月16日(月)～7月29日(金)

II期 グループB、C：平成23年9月5日(月)～11月18日(金)

III期 グループA、C：平成24年1月10日(火)～3月26日(月)

曜	時限	コマ数	担 当 者	内 容
月 ～ 金	1 ～ 4	60	大橋 綾子 教授	モデル生物の防御応答や環境適応に関わる遺伝子群を、変異体や各種遺伝子ライブラリーを用いてスクリーニングし、遺伝子の機能についての新しい知見を得ることを目的とする。更に、バイオインフォマティクスに対する知識と技術を学び、得られた変異体や遺伝子に関する情報を収集・統合する技能を養う。

曜	時限	コマ数	担当者	内 容
月 ～ 金	1 ～ 4	60	白石 博久 講師	感染防御もしくは環境応答に関連する遺伝子を、遺伝子工学技術により改変し、モデル生物に遺伝子導入して、トランスジェニック体を作成する。その結果、生じる表現型を解析することで、注目する遺伝子の構造と機能の関連についての新しい知見を得ることを目的とする。更に、細胞生物学的解析技術も取り入れ、広範な解析が行える知識と技術を身につける。
月 ～ 金	1 ～ 4	60	丹治 貴博 助教	感染防御もしくは環境応答に関連する遺伝子を、遺伝子工学技術により改変し、モデル生物に遺伝子導入して、トランスジェニック体を作成する。その表現型に影響を与える遺伝子を変異体もしくは各種遺伝子ライブラリーよりスクリーニングする。遺伝子間の相互作用についての新しい知見を得ることを目的とする。更に、遺伝学的・分子生物学的技術も取り入れ、広範な解析が行える知識と技術を身につける。
月 ～ 金	1 ～ 4	60	錦織 健児 助教	感染防御もしくは環境応答に関連する遺伝子を導入したトランスジェニック体における、生体内分子の動態やオルガネラ機能の変化について解析する。微生物とモデル生物間にみられる、防御システムを含む様々な相互作用についての新しい知見を得ることを目的とする。更に、生化学的分析技術も取り入れ、広範な解析が行える知識と技術を身につける。

#### 教科書（教）・参考図書（参）・推奨図書（推）

	書 名	著者名	発行所	発行年
参	ヒトの分子遺伝学 第3版	Strachan 他 村松 正實、木南 凌 監訳	デグラー・サイエンス・インターナショナル (定価 11,000 円)	2005
参	細胞の分子生物学 第5版	Alberts 他 中村 桂子 / 松原 謙一 他 監修	ニュートンプレス (定価 22,300 円)	2010
参	線虫ラボマニュアル	三谷 昌平 編	シュプリンガー・フェアラーク東京 (定価 4,000 円)	2003
参	研究をささえるモデル生物：実験室いきものガイド	吉川 寛、堀 寛 編	化学同人 (定価 3,800 円)	2009
参	The Nematode <i>Caenorhabditis elegans</i>	William B. Wood	Cold Spring Harbor Laboratory (定価 5,402 円)	1988
参	<i>C. elegans</i> II.	Donald L. Riddle 他 編	Cold Spring Harbor Laboratory (定価 8,268 円)	1997

#### 授業に使用する機器・器具と使用目的

使用区分	機器・器具の名称	台数	使用目的
実習用	SXZ10 用落射蛍光装置 (オリンパス、SXZ2-RFA10-2)	1	試料の蛍光観察のため
〃	実体顕微鏡システム (オリンパス、SZX10-3151)	1	試料の低倍観察のため
〃	実体顕微鏡 S Z X 1 2 (オリンパス、SZX16)	1	試料の低倍観察のため
〃	インキュベータ (三洋電機、M I R - 253)	1	生物試料の飼育のため

使用区分	機器・器具の名称	台数	使用目的
実習用	ケールインキュベーター (アズワン、CK-0444-040)	2	生物試料の飼育のため
〃	オートクレーブ (トミー精工、SX-500)	1	培地の滅菌のため
〃	サマルサイクラー (アプライドバイオシステムズ、veriti)	1	遺伝子の増幅のため
〃	PCR/96WELL/GeneAmp9700G (タカラバイオ、GeneAmp9700G)	1	遺伝子の増幅のため
〃	多用途小型遠心機 (冷却) CF16RX (日立、CF16RX)	1	試料の遠心分離のため
〃	電子天秤 (メトラートレド、AB-135S・FACT)	1	試薬の秤量のため
〃	電子天秤 (島津理化、EBL300)	1	試薬の秤量のため
〃	UV イルミネータ ゲル撮影装置 (東洋紡、FAS-III)	1	核酸電気泳動の画像取得のため
〃	-80 度フリーザー (三洋電機バイオシステム、MDF-U52V)	1	試料の保存のため
〃	フリーザー-20 度 (三洋電機バイオシステム、MDF-136+MDF-334)	1	試料の保存のため
〃	冷蔵庫 (三洋電機バイオシステム、SR-261J)	1	試料・試薬の保存のため
〃	プレハブ恒温室 (島津理化、特)	1	試料の恒温観察のため
〃	安全キャビネット (日立、SCV-1606ECⅡAB)	1	微生物の取り扱いのため
〃	スーパーモバイル LED プロジェクター (TAXAN、KG-PL021X)	1	セミナー等のため
〃	製氷機 (ホシザキ、FM-120F)	1	製氷のため
〃	超純水精製機 (日本ミリポア、ElixUV5)	1	純水の調製のため
〃	DNA シーケンサー (ABI、3130x1-200)	1	塩基配列の解析のため
〃	卓上微量高速遠心機 (日立、CT15RE、T15A61)	1	試料の遠心分離のため
〃	液体窒素貯蔵容器 (ケニス、3-318-670)	1	液体窒素の貯蔵
〃	液体窒素容器 (三洋電機バイオシステム、XC47/11-6)	1	液体窒素・低温試料の貯蔵
〃	パソコン VAIO (SONY、VPCEA3AFJ)	3	実験データの取り扱いのため
〃	Plate Spin II プレート専用遠心機 (久保田商事、Plate Spin II 3500rpm)	1	プレート試料の遠心分離
〃	落射蛍光顕微鏡一式 (オリンパス、BX51N-34-FLD-1)	1	試料の高倍観察のため
〃	落射蛍光装置 (オリンパス、BX2N-FL-1)	1	蛍光観察のため
〃	落射蛍光装置 (実体顕微鏡用) (オリンパス、SZX16-6331FL)	1	蛍光観察のため
〃	蛍光高級顕微鏡 (倒立) (オリンパス、DP-70+metamorph)	1	顕微注射・高倍観察のため
〃	倒立型ルーチン顕微鏡 (オリンパス、CKX31N-11PHP)	1	細胞の観察
〃	ナシゲインジェクター (ナシゲ、インジェクター)	1	顕微注射のため
〃	小型電源装置マイラー II 500 (アト、AE-8155)	1	電気泳動時の電源のため

使用区分	機器・器具の名称	台数	使用目的
実習用	超音波細胞破碎機 (タイテック、VP-5s)	1	試料の超音波破碎のため
〃	PHメーター (島津理化、D-55 T)	1	試薬の調製のため
〃	ゲルドライヤー (エアブラウン、エヘンス 3740301)	1	ゲル試料の保存のため
〃	シェーカー (タイテック、NR-3)	2	試料の振盪のため
〃	乾燥機 (島津理化、STAC-N400M)	1	実験器具の乾燥のため
〃	恒温乾燥機 (島津理化、STAC-P400M)	1	実験器具の乾燥のため
〃	ハイブリンカー UVP (フコシ、HL-2000)	1	UV 照射のため
〃	ドラフトチャンバー (島津理化、CBR-Sc15-F)	1	揮発試薬の取扱いのため
〃	クリーンベンチ (島津理化、SCB-1800AS)	1	細胞の取扱いのため
〃	クリーンベンチ (三洋電機バイオシステム、MCV-91BNF)	1	細胞の取扱いのため
〃	画像解析装置 (フジフィルム、L A S -3000)	1	画像解析のため
〃	共焦点レーザー顕微鏡 (暗室込) (オリンパス、FV-1000)	1	蛍光の微細構造の観察のため
〃	恒温式 2 連ジャイアソックスラフゲル電気泳動装置	2	試料の電気泳動のため
〃	ホライズプロット	1	タンパク質試料の膜への転写のため
〃	ホライズプロット・2M	1	タンパク質試料の膜への転写のため
〃	4℃チャンバー (窓付)	1	低温作業のため
〃	CO2 インキュベーター	1	細胞の培養のため

## (分子細胞薬理学講座)

責 任 者 : 中山 貢一 教授  
担当講座 (科) : 分子細胞薬理学講座

### 一般目標 (GIO) :

薬物の生命体に対する作用を分子から生命体までを用いて明らかにすると共に、それらを統合し協調する関係の仕組みまで踏み込む。当分子細胞薬理学講座では、循環系薬理学及びその関連分野を研究の支柱にし、生命体の神経調節および循環系基盤疾患となる代謝症候群を見据えた基礎研究や創薬研究を行う。薬理学研究に際し、基本的循環機能の測定をもとに、メカノストレス負荷や電気生理・薬理学やイメージングおよび分子薬理学および分子生理学的研究手法を用いる。卒業研究のテーマは当講座の研究分野と各配属学生の興味、適性を勘案し、相談の上、決定する予定である。

### 到達目標 (SBOs) :

1. 課題を理解し、その達成に向けて積極的に取り組む。
2. 課題達成のために、他者の意見を理解し、討論する能力を醸成する。
3. 研究活動に関わる諸規則を遵守し、倫理に配慮して研究に取り組む。
4. 課題に関連するこれまでの研究成果を調査・評価し、これまでの発表論文を読解できる。
5. 実験計画を立案でき、実験系を組み、実験を実施できる。
6. 実験に用いる薬品、器具、機器を正しく取扱い、管理する。
7. 研究の結果をまとめることができる
8. 研究の成果を発表し、適切に質疑応答ができる。また研究の成果を報告書や論文としてまとめることができる。
9. 心臓・血管・代謝系疾患治療薬の探索、合成、構造活性相関、薬理作用、臨床応用、体内動態、副作用、相互作用などについて調査し、発表できる。(☆)

### 実習日程

5年次については、実務実習実施中の学生以外の者を対象とする。

なお、実務実習の期間は以下のとおり。

I期 グループA、B：平成23年5月16日(月)～7月29日(金)

II期 グループB、C：平成23年9月5日(月)～11月18日(金)

III期 グループA、C：平成24年1月10日(火)～3月26日(月)

曜	時限	コマ数	担 当 者	内 容
月 ～ 金	1 ～ 4	60	中山 貢一 教授	分子薬理学の技術と知識を応用した生物薬学系の研究を行う。研究計画の立案、実施、データ解析およびプレゼンテーションに関して総合的に学習する。主に循環系、神経系および代謝系などに関わる分野のメカノトランスダクションを踏まえた研究を、最先端の方法論を駆使して行う。

曜	時限	コマ数	担当者	内 容
月 ～ 金	1 ～ 4	60	弘瀬 雅教 教授	生体に影響を与える天然物由来成分の薬効解析を行い、創薬薬理学研究を理解する。薬物作用を動物を用い行動薬理的に、器官を用い機能学的に、さらに細胞を用いて分子生物学的に解明する。個体から分子レベルへ薬物効果を体系づけて研究し、薬物による制御機構を明らかにする。特に循環器系疾患の中の不整脈治療の創薬に対して、膜電位光学マッピング法等の新しい実験技術を応用して薬物による制御機構を明らかにする。
月 ～ 金	1 ～ 4	60	田邊 由幸 准教授	循環器系・代謝系疾患の基盤病態となる代謝症候群を研究題材として、肥大化脂肪組織を構成する細胞ネットワーク（脂肪細胞-間質/血管系細胞-炎症性細胞）での遺伝子発現解析から、細胞間相互作用における恒常性破綻の分子機構の解明を行う。また、疾患モデル動物を用いた実験治療学的研究を行い、創薬に繋がる研究を行う。
月 ～ 金	1 ～ 4	60	斉藤 麻希 助教	難治性疾患である肺動脈性肺高血圧症の成因および進行における力学因子の役割や、力学刺激の受容と応答に関わる因子を明らかにすることで、同疾患の新たな治療戦略の提示を目指す。循環系の生理学・薬理学の理解を深めつつ、疾患モデル動物を用いた治療実験、組織・細胞レベルでの薬理的解析を行う。

教科書（教）・参考図書（参）・推奨図書（推）

	書 名	著者名	発行所	発行年
教	New 薬理学 改訂5版	田中 千賀子 加藤 隆一 編	南江堂 (定価 8,800 円)	2007
教	人体機能生理学 改訂第4版	杉 晴夫 他	南江堂 (定価 10,000 円)	2008
参	New 薬理学 改訂第6版	田中 千賀子 加藤隆一 編	南江堂 (定価 8,800 円)	2011
参	人体機能生理学 改訂第5版	杉 晴夫 編	南江堂 (定価 10,000 円)	2009
参	Principles of pharmacology : the pathophysiologic basis of drug therapy 2nd ed.	David E. Golan et al., (ed.)	LIPINCOTT/ Williams & Wilkins (定価 8,372 円)	2008
参	Mechanosensitivity in Cells and Tissues Vol.1-6	Andre Kamkin, Irina Kiselva (ed.)	SPRINGER 各巻 (定価 19,000 円)	2008-2012
参	Cardiac electrophysiology : from cell to bedside 5th ed.	Zipes and Jalife	SAUNDERS (定価 34,287 円)	2009
参	Optical Mapping of Cardiac Excitation and Arrhythmias	Rosenbaum and Jalife	SAUNDERS (定価 17,590 円)	2001
参	非侵襲・可視化技術ハンドブック：ナ ノ・バイオ・医療から情報システムまで	小川 誠二 上野 照剛 編	エヌ・ティエス (定価 57,000 円)	2007
参	Adipose Tissue in Health and Disease	James G. Granneman (ed.)	Wiley-VCH (定価 20,323 円)	2010

	書名	著者名	発行所	発行年
参	Pulmonary Hypertension (Lung Biology in Health and Disease)	Marc Humbert, Joseph P., III Lynch 編	Informa Healthcare (定価 19,013 円)	2009

#### 授業に使用する機器・器具と使用目的

使用区分	機器・器具の名称	台数	使用目的
実習用	MacLab 8チャンネル	1	ラットの血圧測定のため
〃	MacLab用PC及び レーザードプラ血流計	1	ラットの血圧・血流測定のため
〃	マウス用呼吸器	1	マウスの呼吸管理のため
〃	マスターフレックスポンプ	1	タイロッド還流のため
〃	純水製造装置	1	タイロッド液調製のため
〃	パッチクランプシステム	1	心筋の各種イオン電流の測定のため
〃	プローブ式超音波細胞破碎機	1	細胞を破碎するため
〃	マイクロセンサ圧力計測システム	1	マウスの血圧測定のため
〃	電子天秤	1	試薬調製のため
〃	ランゲンドルフ用簡易電極マニピュレーター	1	電気刺激のため
〃	pHメータ	1	タイロッド液等のpH調製のため
〃	液晶プロジェクター	1	研究発表のため
〃	パソコン	5	自習用
〃	低速冷却遠心機 himac CF7D2 (日立)	1	遠心分離
〃	冷却装置付きマイクロ遠心機 TMA-200 (トミー精機)	1	遠心分離
〃	バイオ用クリーンベンチ MCV-91-BNF (三洋電機バイオシステム)	1	無菌操作
〃	クリーンベンチ MCV-131BNF (三洋電機バイオシステム)	1	無菌操作
〃	CO2インキュベーターMCO-18AIC (UV) (三洋電機バイオシステム)	1	細胞培養
〃	生化学用細胞伸展装置 ST-140 (ストレックス社)	1	細胞への伸展刺激負荷
〃	位相差・蛍光顕微鏡 + plus DIC Axiovert40 (ZEISS)	1	細胞観察
〃	循環恒温水槽 NTT-20S (東京理化)	1	培養液・バッファー等の保温
〃	分光光度計 U-1800 (日立)	1	吸光度測定
〃	ヌクレオフェクターシステム	1	形質導入抵抗性培養細胞への遺伝子導入実験

## (創剤学講座)

責 任 者 : 佐塚 泰之 教授

担当講座 (科) : 創剤学講座

### 一般目標 (GIO) :

医薬品を必要なとき、必要な部位に送達する Drug Delivery System (DDS、薬物送達システム) は、医薬品の効力を増大させるとともに、副作用を軽減させることを可能とする創剤学的手法である。当講座では、課題研究で習得した知識、技術を基盤にリポソームに代表される新たな薬物キャリアの性状と生物学的有用性の関連を明らかにするとともにキャリアによらない DDS の可能性を探る。卒業研究のテーマは当講座の研究分野に対する各学生の興味を考慮して決定する予定である。

### 到達目標 (SBOs) :

1. 科学実験、操作、結果の説明などに関する英語表記を列記できる。
2. 薬学関連分野の英語論文などの内容を説明できるとともに、作成できる。
3. 製剤化の方法と意義を理解するために、薬物と製剤材料の物性、医薬品への加工、および薬物送達システムに関する基本的知識と技能を修得する。
4. 薬物治療の有効性、安全性、信頼性を高めるために、薬物の投与形態や薬物体内動態の制御法などを工夫した DDS に関する基本的知識を修得するとともに応用できる。(☆)
5. ドラッグキャリアにより創製された医薬品の具体例を述べるができる。(☆)
6. 現在使用されている医薬品の問題点をあげ、新規に開発されるべき医薬品ならびに剤形の特性を説明できる。(☆)
7. ドラッグキャリアの特性を理解し、既存医薬品の問題点の提起とその解決方法を立案、計画、実施できる。(☆)
8. 実験から得たデータを総合的に考察、展開した上で、学会等で発表することができる。
9. 実験から得たデータをまとめた後、論文にすることができる。

### 実習日程

5年次については、実務実習実施中の学生以外の者を対象とする。

なお、実務実習の期間は以下のとおり。

I 期 グループ A、B : 平成 23 年 5 月 16 日 (月) ~ 7 月 29 日 (金)

II 期 グループ B、C : 平成 23 年 9 月 5 日 (月) ~ 11 月 18 日 (金)

III 期 グループ A、C : 平成 24 年 1 月 10 日 (火) ~ 3 月 26 日 (月)

曜	時限	コマ数	担 当 者	内 容
月 ~ 金	1 ~ 4	120	佐塚 泰之 教授	創剤学、薬剤学、製剤学等の技術と知識を応用した医療薬学系の研究を行う。研究計画の立案、実施、解析、問題提起と新たな研究の展開に関し習得するとともに、プレゼンテーション能力を身に付ける。研究は DDS を主体とし、リポソームに代表されるナノキャリアのキャラクタリゼーションと抗腫瘍剤等の薬効との関連、Biochemical Modulation に立脚した食品成分を含む薬物併用による医薬品の効果増強について研究する。

曜	時限	コマ数	担当者	内 容
月 ～ 金	1 ～ 4	60	杉山 育美 助教	リポソームの性状について詳細に学ぶとともに、医薬品の創成に関わる生物学的有効性を規定する因子に関し、物理学的側面よりアプローチを試みる。
月 ～ 金	1 ～ 4	60	宮下 宙子 助教	Biochemical Modulation に立脚した食品成分を含む薬物併用による医薬品の効果増強について研究するとともに、そのメカニズム解明を試みる。

#### 教科書（教）・参考図書（参）・推奨図書（推）

	書 名	著者名	発行所	発行年
参	製剤学 改訂第5版	四ツ柳 智久 他編	南江堂 (定価 5,700 円)	2007
参	Liposomes : Methods and Protocols, Volume 1: Pharmaceutical Nanocarriers	V. Weissig, et al	Humana Press (定価 13,222 円)	2010
参	第十五改正日本薬局方解説書 学生版 [Set]	杉山 雄一、他編	廣川書店 (定価 38,000 円)	2006
参	スタンダード薬学シリーズ2 「物理系薬学Ⅱ 化学物質の分析」 第2版	日本薬学会 編	東京化学同人 (定価 3,500 円)	2008
参	スタンダード薬学シリーズ7 「製剤化のサイエンス」	日本薬学会 編	東京化学同人 (定価 3,200 円)	2006
参	薬局方試験法：概要と演習 第8版	伊藤 清美 他著	広川書店 (定価 5,800 円)	2007
参	日本薬局方要説 第6版	菊川 清見 他編	廣川書店 (定価 3,600 円)	2008
参	創剤学実習書	創剤学講座 編	創剤学講座	2009

#### 授業に使用する機器・器具と使用目的

使用区分	機器・器具の名称	台数	使用目的
実習用	蛍光光度計（日立、F-2500）	1	蛍光強度測定
〃	データ処理用 PC（日立、Nu11）	1	上記附属品
〃	分光光度計（日立、U1900）	1	吸光度測定
〃	マイクロプレートリーダー （日立ハイテック、MTP800LAB）	1	殺細胞効果評価
〃	データ処理用 PC（日立、Nu11）	1	上記附属品
〃	CO2 インキュベーター （ヒラサワ、CPD-2701）	1	細胞培養
〃	遠心機（日立、CF5RX）	1	サンプル分離
〃	スイングローター（日立、T4SS31）	1	上記附属品

使用区分	機器・器具の名称	台数	使用目的
実習用	液体クロマトグラフィー (島津製作所、LC-20A システム)	1	サンプル定量
〃	LC ワークステーション (島津製作所、Lcsolution Single)	1	上記附属品
〃	冷蔵庫 (シャープ、SJ-HD50P)	1	サンプル保存
〃	レーザーゼータ電位計 (Sysmex, Nano-ZS)	1	リポソーム物性評価
〃	データ処理用 PC (Sysmex, Null)	1	上記附属品
〃	ディープフリーザ (三洋、MDF-192)	1	サンプル保存
〃	器具乾燥器 (島津製作所、STAC-G400)	1	器具乾燥
〃	天秤 (島津製作所、AUX120)	1	サンプル秤量
〃	顕微鏡 (オリンパス、AUX120)	1	キャリア観察

## (薬物代謝動態学講座)

責 任 者 : 小澤 正吾 教授  
担当講座(科) : 薬物代謝動態学講座

### 一般目標 (GIO) :

医薬品の薬効・有害事象の現れ方には個人差があるので、個人の体質に合った投与法を念頭に薬物療法に従事しなければならない。薬効・有害事象の個人差の原因が解明された事例はごく少数に過ぎない。当講座では薬物投与後の生体機能の変化と薬効・有害事象との関連を明確化、すなわちこれら指標の確立に資する研究を行うことにより、薬物の効き目や安全性の個人差に起因する問題の解決を目指す。卒業研究の具体的テーマは、各学生の興味を考慮して決定する予定である。

### 到達目標 (SBOs) :

1. 薬物の効果や副作用の個人差になる要因を列举できる。
2. 薬物動態と、薬物の作用に関連する遺伝子を列举し、薬物療法との関連を説明できる。
3. 薬物動態に関連するタンパク質とその遺伝子を列举し、薬物療法との関連を説明できる。
4. 薬物治療の個別化に関する知識を修得し、患者個々に応じた投与計画を立案できる。
5. 化学物質の毒性などに関する知識を修得し、関連する技能、態度を身につける。
6. 薬効の個人差に関係する遺伝子多型以外の要因を説明できる。(☆)

### 実習日程

5年次については、実務実習実施中の学生以外の者を対象とする。

なお、実務実習の期間は以下のとおり。

I期 グループA、B : 平成23年5月16日(月)～7月29日(金)

II期 グループB、C : 平成23年9月5日(月)～11月18日(金)

III期 グループA、C : 平成24年1月10日(火)～3月26日(月)

曜	時限	コマ数	担 当 者	内 容
月 ～ 金	1 ～ 4	60	小澤 正吾 教授	薬物投与後、薬効・有害事象発現と関連する薬物代謝動態関連遺伝子発現変化の個体差の分子機構の解析を行う。薬物の作用の評価、および創薬にも結びつきうる最先端の研究である。以上に関する研究セミナーへの参加を通じ、発表技能、個々の患者の服用後のモニタリング結果を今後の治療に結びつけるためのコミュニケーション技術についても学ぶことを目標とする。
月 ～ 金	1 ～ 4	60	幅野 渉 准教授	薬物投与後、薬効指標となりうる内因性基質のレベルや内因性物質の代謝の変化を探索的に研究する。このことは、創薬研究にも結びつくこれからの課題である。以上の創薬の最先端を研究セミナーで学ぶと共に、発表技能、卒業研究に関する論文作成、口頭発表を通して実験結果の吟味、および情報発信能力を身につける。
月 ～ 金	1 ～ 4	60	蒲生 俊恵 助教	薬物代謝動態に関連する遺伝子を解析し、テーラーメイド医療の手法を学ぶ。薬物による薬物代謝動態関連遺伝子の発現変動の解析によって薬効・副作用を予測、評価する培養細胞系の確立を試みる。

曜	時限	コマ数	担当者	内 容
月 ～ 金	1 ～ 4	60	寺島 潤 助教	栄養飢餓ストレスを受けた細胞に薬物を添加し、薬物代謝がストレスによってどのような影響を受けているのかを研究する。 外部刺激がストレスと薬物という複合的な場合の薬物代謝の変動を分子生物学的手法で解析し、ストレスが薬物療法リスクに及ぼす影響の評価を試みる。

#### 授業に使用する機器・器具と使用目的

使用区分	機器・器具の名称	台数	使用目的
実習用	リアルタイム PCR (ABI、PCR システム 7500-1)	1	mRNA 定量のため
〃	製氷機 (ホシザキ、FM-120F)	2	生物試料の調製のため
〃	培養シェーカー (タイテック、大型 2 段)	1	バクテリアの培養のため
〃	超遠心機 (日立、CP80WX+P45AT+P28S2)	1	生物試料の調製のため
〃	DNA シーケンサー (ABI、3130x1-200)	1	核酸塩基配列の解読のため
〃	マルチプレートリーダー (ABI)	1	生物活性の測定のため
〃	画像解析装置 (フジフィルム、LAS-3000)	1	生体高分子の検出と定量のため
〃	安全キャビネット (日本エアテック、BHC-1304IIA/B3)	2	バクテリアの培養のため
〃	共焦点レーザー顕微鏡 (暗室込) (オリンパス、FV-1000)	1	生体高分子の検出のため
〃	倒立蛍光顕微鏡 (ニコン)	1	生体高分子の検出のため
〃	ドラフトチャンパー (島津理化、CBR-Sc15-F)	1	生体試料の調製のため
〃	高速液体クロマトグラフィー (島津製作所、Prominence)	1	酵素活性の測定のため
〃	超低温槽 (三洋電機バイオシステム、MDF-592)	2	生物試料の保存のため
〃	遺伝子増幅装置 (ABI)	2	遺伝子の解析のため
〃	クロマトチェンパー (タイテック、M-210FN)	1	生体高分子の分析のため
〃	安全キャビネット (日立、SCV-1305ECIIAB)	2	組織培養のため
〃	超純水製造装置 (日本ミリボア、Milli-Q Direct-Q)	1	超純水作製のため
〃	オートクレーブ (トミー精工、LBS-325)	1	生物試料の滅菌のため
〃	CO2 インキュベータ (三洋電機バイオシステム、MCO-5AC)	2	組織培養のため
〃	薬用冷蔵庫 (4℃) (三洋電機バイオシステム、MPR-312D(CN))	1	生物試料の保存のため
〃	微量高速遠心機 (日立)	1	生物試料の調製のため
〃	クリーンラック (日本クリア、CL-5412+CL-5431)	1	動物の一時飼育のため
〃	ノート型パソコン (HP Compaq nx6310 一式)	101	インターネットによる文献調査のため
〃	A4 モノクロレーザープリンタ Canon LBP3410	4	インターネットによる文献調査に係る資料作成のため
〃	液体窒素保存容器 (太陽日酸株、DR-30-6)	1	株細胞の保管のため

使用区分	機器・器具の名称	台数	使用目的
実習用	卓上振とう恒温槽 (タイテック、パーソナル 11・SDセット)	1	酵素活性の測定のため
〃	エキスパート天秤 (ザルトリウス、LE225D)	1	試薬の秤量のため
〃	乾熱滅菌器 (ヤマト科学、SI601)	1	器具の滅菌のため
〃	サーモマグネスター (柴田科学、MGH-320)	1	試薬溶液の攪拌のため
〃	プロペキビネット (島津理化、RC-30 543-540)	1	試薬の保管のため
〃	テーブルトップ遠心機 (久保田商事、2410)	1	生物試料の調製のため
〃	インキュベーター (アズワン、IVC-450)	1	生物活性の測定のため
〃	恒温槽用温調器 (島津理化、SBAC-31A)	1	生物活性の測定のため
〃	カラープリンター (理想科学 HC5500)	1	卒業研究に係る資料の作成のため
〃	パソコン(ノート型) (SONY、VISTA)	8	卒業研究に係る調査、および、資料の作成のため

## (神経科学講座)

責任者 : 駒野 宏人 教授  
担当講座(科) : 神経科学講座

### 一般目標 (GIO) :

アルツハイマー病等の脳疾患の治療や診断への応用、あるいは、脳への細胞や薬物デリバリーシステム開発への応用につながる基礎研究を主な研究課題とする。実際には、いくつかの研究課題のなかから学生自身の興味にしたがい、学生が自ら考え選択して決める。この卒業研究を通じて、新しい発見をする体験をすると同時に、研究心のある薬剤師あるいは薬学研究者として必要な課題発見・問題解決能力・医療への応用を考察する能力を育成する。また、実験結果に関する評価の仕方、論文作成、口頭発表の仕方を習得する。

### 到達目標 (SBOs) :

1. 生化学、分子生物学、細胞生物学に関する基礎的な実験技術を習得する。
2. 実験記録の書き方、実験の進め方、結果の評価法を習得する。
3. 得られた実験結果から、どのような発見、課題があるかを考察できる。(☆)
4. 実験関連分野の文献を探し、そこから必要な情報を抽出できる。(☆)
5. 得られた実験結果に関する口頭発表の仕方、質疑応答の仕方を習得する。(☆)
6. 論文作成の基礎を習得する。

### 実習日程

5年次については、実務実習実施中の学生以外の者を対象とする。

なお、実務実習の期間は以下のとおり。

I期 グループA、B : 平成23年5月16日(月)～7月29日(金)

II期 グループB、C : 平成23年9月5日(月)～11月18日(金)

III期 グループA、C : 平成24年1月10日(火)～3月26日(月)

曜	時限	コマ数	担当者	内容
月～金	1～4	60	駒野 宏人 教授	研究課題として、(1)アルツハイマー病の原因となっているアミロイド蛋白の産生機構と毒性機序に関する研究、(2)間葉系幹細胞を利用した脳内再生医療に関する研究、これらのいずれかを選択し研究を進める。この研究を通して、課題発見・問題解決能力を養うと同時に、新しい発見をする体験をする。また、自分の実験結果のプレゼンテーションの仕方やディスカッションの方法をセミナー形式で学ぶ。英語論文の書き方の基礎を学ぶ。
月～金	1～4	60	前田 智司 准教授	薬物や細胞の経鼻投与や血液脳関門経路による脳内送達機構に関する研究を実施する。実際の研究を通して、課題発見・問題解決能力を養う。また、得られた研究成果から、脳へのドラッグデリバリーシステムの開発という応用への可能性を探り、創薬への応用を考える能力を養う。学会発表の仕方・ディスカッションの方法・英語論文の書き方を学ぶ。

曜	時限	コマ数	担当者	内 容
月 ～ 金	1 ～ 4	60	鄒 鶴 助教	アルツハイマー病の原因となっているアミロイド蛋白の分解や毒性機序に関する研究、また、治療法・診断法開発のための基礎研究を進める。実際の研究を通して、課題発見・問題解決能力を養う。また、得られた研究成果から、治療法・診断法の応用への可能性を探り、応用を考える能力を養う。学会発表の仕方・ディスカッションの方法・英語論文の書き方を学ぶ。
月 ～ 金	1 ～ 4	60	田邊 千晶 助教	アルツハイマー病の原因となっているアミロイド蛋白の産生制御に関する研究、また、間葉系幹細胞の脳内分化制御機構の解析を実施する。得られた研究成果から、治療法開発応用への可能性を探り、創薬への応用を考える能力を養う。学会発表の仕方・ディスカッションの方法・英語論文の書き方を学ぶ。

#### 授業に使用する機器・器具と使用目的

使用区分	機器・器具の名称	台数	使用目的
実習用	パソコン (パナソニック・CF-Y7BWAJS)	2	ゼミで使用
〃	プロジェクター (エプソン・EMP-1700)	1	ゼミで使用
〃	画像解析装置 (フジフイルム・LAS-3000) 共有研究室 1	1	ウェスタンブロットのシグナルの検出に使用
〃	超純水精製機 (日本ミリポア・ElixUV5) 共有研究室 2	1	試料の調製に用いる
〃	倒立蛍光顕微鏡 (オリンパス・IX81) 共有研究室 2	1	細胞観察
〃	共焦点レーザー顕微鏡 (オリンパス・FV-1000) 共有研究室 2	1	細胞観察
〃	冷蔵庫 (三洋電機バイオシステム・MPR1410)	1	試料・試薬の保存
〃	薬用冷蔵庫 (4℃) (三洋電機バイオシステム・MPR312D)	1	試料・試薬の保存
〃	バイオメディカルフリーザー (-20℃) (三洋電機バイオシステム・MDF-U442)	1	試料・試薬の保存
〃	冷蔵庫 -80℃ (三洋電機バイオシステム・MPR312D)	1	試料・試薬の保存
〃	ブロックインキュベーター (タイテック・CTU-N)	2	DNA 切断、酵素処理に用いる
〃	冷却低速遠心機 (トミー精工・EX-136)	1	細胞回収
〃	マイクロ遠心機 (日立・CR15RXII)	1	試料の遠心、分離
〃	FAS-III フルシステム (東洋紡・FAS-303)	1	ゲル撮影
〃	電子天秤 (SHIMADZU・UW620H)	1	試薬秤量

使用区分	機器・器具の名称	台数	使用目的
実習用	電子天秤 (SHIMADZU・AUW220D)	1	試薬秤量
〃	pH メーター (ベックマンコールター・φ360-S/FACT)	1	試薬の pH を測定
〃	分光光度計 (ベックマンコールター・DU730)	1	タンパク質・DNA 定量
〃	CO2 インキュベーター (三洋電機バイオシステム・MCO-175)	1	細胞培養
〃	クリーンベンチ (日本エアー・SCB1300AS)	2	細胞培養
〃	顕微鏡 (オリンパス・IX71N)	1	細胞観察
〃	オートクレーブ (トミー精工・ES-315)	1	器具の滅菌および細胞・大腸菌の滅菌に用いる
〃	プリンター (FUJI XEROX・C3250)	1	ゼミの資料作成・実験結果印刷
〃	ホモジナイザー (東京理化・ポリトロン PT3100)	1	細胞破碎
〃	超音波細胞破碎機	1	細胞破碎
〃	サイド実験台 1200 (島津理化)	3	実験操作を行う
〃	メディウムサッカー (池本理化・174-328-01)	1	培地の吸引
〃	iBLOT	1	トランスファー装置 (ウエスタンブロットに用いる)
〃	リアルタイム PCR (ABI・PCR システム 7500-1) 共有研究室 2	1	mRNA 量を測定
〃	製氷機 (ホシザキ・FM-120F) 共有研究室 2	1	試料を保冷する
〃	培養シェーカー (タイテック大型 2 段) 共有研究室 2	1	大腸菌を培養する
〃	シェーカー (EYELA MMS-310)	1	試料を振盪する

## (分子生物薬学講座)

責 任 者 : 前田 正知 教授  
担当講座 (科) : 分子生物薬学講座

### 一般目標 (GIO) :

生体を構成する分子の役割・分析手法を熟知した上で、癌、心臓・血管傷害、肥満などの疾患の予防や治療に役立つ分子生物薬学研究を行う。遺伝子機能を解明する研究を通して癌細胞のアポトーシスや脂質蓄積の制御機構を明らかにする他、心筋や血管平滑筋細胞、癌細胞での遺伝子発現制御、細胞内情報伝達経路に注目した検討を進める。また病原細菌の ATP 合成酵素の分子特性についても明らかにする。これらの研究を医薬品の作用機構解明に役立てるとともに、新たな医薬品の分子標的を明らかにし、さらに医薬品のスクリーニングシステムの構築にもつなげて行く。

### 到達目標 (SBOs) :

1. 研究テーマに関連した文献検索、研究領域全体の理解、問題点の抽出ができる。
2. 研究テーマを理解し、実験計画の立案、実行、記録、考察ができる。
3. 研究成果をまとめ、発表しレポートにすることができる。
4. ゲノム情報を中心とするインターネットサイトを検索し、遺伝子関連の情報を的確に収集して編集し、活用することができる。(☆)
5. 遺伝子発現の基本原則と制御の多様性を理解し、疾病、医療や医薬品とどのように関連づけられるか説明することができる。
6. 細胞内情報伝達系の概要を理解し、疾病、医療や医薬品とどのように関連づけられるか説明することができる。
7. 細胞小器官を構成するタンパク質の局在化機構や膜タンパク質の分子集合の機構、ATP 合成に共役するプロトン輸送の機構について、理解し説明することができる。(☆)
8. 医薬品開発に役立つ評価系について原理を理解し、実際に実施した上で説明することができる。

### 実習日程

5年次については、実務実習実施中の学生以外の者を対象とする。

なお、実務実習の期間は以下のとおり。

I期 グループA、B : 平成23年5月16日(月)～7月29日(金)

II期 グループB、C : 平成23年9月5日(月)～11月18日(金)

III期 グループA、C : 平成24年1月10日(火)～3月26日(月)

曜	時限	コマ数	担 当 者	内 容
月 ～ 金	1 ～ 4	60	前田 正知 教授	循環器系疾患の予防や治療を念頭においた心臓や血管細胞の遺伝子発現制御、心筋細胞の分化や癌細胞の細胞内情報伝達経路の制御に関連する分子生物薬学研究を行なう。また、病原細菌のエネルギー代謝に注目した研究も行う。これらを通して、医薬品の作用機構の解明に役立てるとともに新たな分子標的を探索する。専門とする研究分野の学会に参加・発表することも視野に入れて活動する。

曜	時限	コマ数	担当者	内 容
月 ～ 金	1 ～ 4	60	藤本 康之 准教授	肥満や動脈硬化の予防や治療を念頭においた脂質の代謝やタンパク質分解に関連するテーマを行う。リソゾーム膜を構成するタンパク質の局在化機構とともに細胞内に脂質が蓄積する分子機構を明らかにし、蓄積の阻害と解除を目指した分子生物薬学研究を通して、生活習慣病の軽減に役立つ情報を得る。
月 ～ 金	1 ～ 4	60	牛島 弘雅 助教	癌細胞の細胞内情報伝達経路の制御に関連する分子生物薬学研究を行い、医薬品の作用機構の解明に役立てるとともに創薬に向けて新たな分子標的を探索する。
月 ～ 金	1 ～ 4	60	荒木 信 助教	脂質代謝関連医薬品による細胞内情報伝達経路の制御に関連する研究や病原細菌の ATP 合成酵素に関する研究を行い、医薬品の作用機構の解明に役立てるとともに創薬に向けて新たな分子標的を探索する。

#### 教科書（教）・参考図書（参）・推奨図書（推）

	書 名	著者名	発行所	発行年
参	ヴォート生化学 第3版（上）（下）	田宮 信雄 ら訳	東京化学同人 （定価 6,700 円）	2005
参	ヒトの分子遺伝学 第3版	Strachan 他 村 松 正實、木南 凌 監訳	メディカルサイエンス・イン ターナショナル （定価 11,000 円）	2005
参	Essential 細胞生物学 原著第3版 訳書	B. Alberts 他	南江堂 （定価 8,000 円）	2011
参	生化学辞典 第4版	大島 泰郎 ほか 編	東京化学同人 （定価 9,800 円）	2007

#### 授業に使用する機器・器具と使用目的

使用区分	機器・器具の名称	台数	使用目的
実習用	サーマルサイクラー	3	PCR 反応
〃	核酸用電気泳動装置 Mupid2-Plus （アドバンス、M-2P）	3	核酸電気泳動
〃	ゲル撮影装置 （TOYOBO、FAS-III）	1	DNA 電気泳動のゲルイメージ 撮影
〃	ピペットマン （ギルソン、P1000、P200、P20）	各 10	溶液サンプルの分取
〃	冷却遠心機 （TOMY、MX-150）	1	溶液サンプルの遠心
〃	クリーンベンチ （HITACHI、PCV-1304ANG3）	1	細胞の培養
〃	倒立顕微鏡 （Olympus、IX70）	2	培養細胞の観察

## (臨床医化学講座)

責 任 者 : 那谷 耕司 教授

担当講座 (科) : 臨床医化学講座

### 一般目標 (GIO) :

臨床医化学講座では、糖尿病を含めた生活習慣病に関して、その病態の解明、新たな治療法の開発をめざした基礎研究を中心に卒業研究を行う。具体的には、培養細胞やマウス等の実験動物を用い、各種分子生物学的手法により問題点の解明を進めて行く。また、実験を通して、実験計画の立案、結果の解釈について学ぶとともに、わかりやすく発表し論文にまとめる技術についても学習する。実際の卒業研究のテーマは、学生の関心等を考慮して決定する予定である。

### 到達目標 (SBOs) :

1. 必要な薬学関連文献を選択し検索できる。
2. 薬学関連分野の英語文献の内容を簡潔に要約し、説明できる。(☆)
3. 滅菌、消毒、無菌操作を適切に行うことができる。
4. 核酸、タンパク質について各種実験手法(酵素反応, PCR法, 電気泳動)を実施できる。
5. 代表的な実験動物、遺伝子組換え生物の適正な取り扱いを理解できる。(☆)
6. 実験から得た結果を科学的に考察し、記録としてまとめ、説明することができる。

### 実習日程

5年次については、実務実習実施中の学生以外の者を対象とする。

なお、実務実習の期間は以下のとおり。

I期 グループA、B : 平成23年5月16日(月)～7月29日(金)

II期 グループB、C : 平成23年9月5日(月)～11月18日(金)

III期 グループA、C : 平成24年1月10日(火)～3月26日(月)

曜	時限	コマ数	担 当 者	内 容
月 ～ 金	1 ～ 4	60	那谷 耕司 教授	遺伝子改変動物などの実験動物、培養細胞を用いて、糖尿病などの生活習慣病の病態解明、新たな治療法に開発を目指した基礎研究を中心に行う。この研究を通して糖尿病研究の現状などを理解するとともに、実験技法、実験結果のまとめ方、論文作成・プレゼンテーションの技術等を身につけ、研究者としての基礎を作る。
月 ～ 金	1 ～ 4	60	大橋 一晶 准教授	薬物の作用について、モデル生物を用いて分子生物学的に解析を行う。実験結果から得られたデータの解釈などを研究発表やグループ討論で学ぶと共に、卒業研究に関する口頭発表や論文作成法についても学習する。
月 ～ 金	1 ～ 4	60	高橋 巖 助教	インスリン産生膵β細胞の増殖、機能と糖鎖構造との関連性について、主に培養細胞を用いて解析を行う。糖尿病の発症機構については未知な点が多く、膵β細胞における糖鎖の役割を明らかにすることは、糖尿病の病態解明、新たな治療法の開発につながる。
月 ～ 金	1 ～ 4	60	ナシイン シェルニー 助教	糖尿病を中心に、患者血清中の再生・増殖因子Regファミリー蛋白に対する自己抗体をスクリーニングし、患者個々の病態と比較することで、Regファミリー蛋白が種々の疾患の病態に関与しているかを解析する。この研究を通じて、実験データの統計学的処理についても習熟する。

教科書（教）・参考図書（参）・推奨図書（推）

	書名	著者名	発行所	発行年
参	Essential 細胞生物学 原著第3版 訳書	B. Alberts 他	南江堂 (定価 8,000 円)	2011
参	糖尿病学：カラー版：基礎と臨床	門脇 孝 他編	西村書店 (定価 18,900 円)	2007

授業に使用する機器・器具と使用目的

使用区分	機器・器具の名称	台数	使用目的
実習用	安全キャビネット	1	無菌操作
〃	4℃冷蔵ショーケース	1	試料の保存
〃	オートクレーブ	1	試薬・器具の滅菌
〃	ノートパソコン	5	英語文献検索
〃	電子天秤	1	試薬の秤量
〃	分析天秤	1	試薬の秤量
〃	冷却装置付きマイクロ遠心機	1	試料の遠心
〃	ドラフトチャンバー	1	試薬の調製
〃	バイオメディカルフリーザー	1	試料の保存
〃	CO <sub>2</sub> インキュベータ	2	細胞の培養等の無菌操作
〃	安全キャビネット	1	細胞の培養
〃	乾熱滅菌器	1	器具の滅菌
〃	PCR装置	1	遺伝子の増幅
〃	ディープフリーザー	1	試料の保存
〃	ヒートブロック恒温槽	1	試料の加熱
〃	pHメーター	1	試薬の調製
〃	ウォーターバス	1	試料の加熱

## (薬剤治療学講座)

責 任 者 : 西郡 秀夫 教授  
担当講座(科) : 薬剤治療学講座

### 一般目標 (GIO) :

多くの医薬品にはすぐれた治療効果とともに副作用がある。「治療効果／副作用」比を高めるためには、剤形や投与方法の工夫、治療作用と副作用発現機序の解明が必要である。これら創薬・育薬へ向けた考え方を、様々な実験系を用いた基礎研究を行いながら習得する。また、物事を解決するために必要な情報を集め、その情報を読み解く力を育てることで、研究テーマの意義や研究に関わる問題点の解決方法を学び、自分の考えを他者にプレゼンテーションするための基礎的な技能を習得する。

### 到達目標 (SBOs) :

1. 動物実験(受精卵-ヒヨコ系および齧歯類)、遺伝子改変動物 - それぞれの実験系の特性を理解し、医薬研究への応用について説明できる。(☆)
2. 使用する薬物ならびに化合物の薬理作用と副作用を列挙できる。
3. 生活習慣病、神経筋疾患、循環器疾患に伴う最新の治療薬の特性を列挙できる。(☆)
4. 生活習慣病、神経筋疾患、循環器疾患に伴う基本的な処方を解析できる。
5. 薬学関連分野の英語論文などの内容を説明できる。
6. 使用頻度の高い医薬品について医薬品との相互作用について列挙できる。
7. 医薬品(後発医薬品を含む)の使用について評価できる。
8. 薬剤師が行う調剤業務のリスクについて列挙できる。

### 実習日程

5年次については、実務実習実施中の学生以外の者を対象とする。

なお、実務実習の期間は以下のとおり。

I期 グループA、B : 平成23年5月16日(月)～7月29日(金)

II期 グループB、C : 平成23年9月5日(月)～11月18日(金)

III期 グループA、C : 平成24年1月10日(火)～3月26日(月)

曜	時限	コマ数	担 当 者	内 容
月 ～ 金	1 ～ 4	60	西郡 秀夫 教授	プレドニゾンなどの副腎皮質ホルモン由来の医薬品は非常に多くの疾患の治療に用いられている。しかし、副作用も多く、とくに小児では白内障や骨の成長抑制などが問題となっている。そこで、受精鶏卵を用いる系で薬効を残して副作用を軽減させる研究を行う。さらに、ホルモンの発生への影響、出生後の成長への影響などを行動薬理と生化学手法を用いながら研究する。また、最も重要な生理・薬理作用とされる免疫・炎症に関する研究を行い、新規生理活性物質の検察とホルモンとの関わりを調べ、創薬への道を拓く。以上の研究を通してQOLを考えた薬物治療への姿勢を習得し、医療人・科学者として「薬剤師」を自覚する。 具体的には、「受精鶏卵を用いた病態モデルの開発」、「鶏胚発育におけるホルモンの関与」、「発育過程の人為的環境変化と生後、成長後の代謝能、行動への影響」などを研究させる。

曜	時限	コマ数	担当者	内 容
月 ～ 金	1 ～ 4	60	三部 篤 嘱託教授	<p>1) 胎児の成長・発達に影響を及ぼす因子の解明と予防・治療法の開発 薬物、環境因子や嗜好品が発生段階および組織形成に影響を及ぼすことはよく知られている。しかし、これらの物質がどの段階で、どの細胞に影響を及ぼし、形態形成に影響しているかは殆ど明らかにされていない。本研究課題では、各組織における特異的細胞の分化に対する薬物およびその他の因子の効果を分子レベル、細胞レベル、動物レベルで検討し、標的細胞および作用時期を明らかにする。さらに、組織および器官形成に及ぼす薬物あるいはその他の因子の分子生物学的メカニズムを明らかにする。</p> <p>2) 変性タンパク質を原因とする難治療性疾患の治療法の開発 難治性疾患の多くは、正常な立体構造を保てない変性タンパク質がその病態に関わっている。本研究課題ではこの変性タンパク質を原因とする疾患(筋原線維性ミオパシーや神経筋疾患など)の病態を分子レベル、細胞レベル、動物レベルで検討し、その知見を基に新規治療法の開発を試みる。</p>
月 ～ 金	1 ～ 4	60	鏡 圭介 助教	受精鶏卵-鶏胚-雛系を用いて、医薬品の毒性試験、催奇形性などの研究を医薬品単剤の場合と複合剤にした場合で比較検討させ、医薬品の安全性と使用法の問題点について学ぶ。

#### 教科書(教)・参考図書(参)・推奨図書(推)

	書 名	著者名	発行所	発行年
推	治療薬マニュアル 2011	高久史磨 監修	医学書院 (定価 5,000 円)	2011
推	わかりやすい疾患と処方薬の解説 2010	齋藤 康(監修)	アークメディア (定価 6,000 円)	2010
推	病気と薬のパーフェクト BOOK 2011 (薬局 増刊号)		南山堂 (定価 7,000 円)	2011
推	類似薬の使い分け	藤村 昭夫 (編集)	羊土社 (定価 3,600 円)	2009
参	超図解薬はなぜ効くか：医師・看護師・薬剤師へ	田中 正敏	講談社 (定価 2,600 円)	2009

#### 授業に使用する機器・器具と使用目的

使用区分	機器・器具の名称	台数	使用目的
実習用	ドラフトチャンバー	1	毒物、劇物取り扱い
〃	分光光度計(ダブルビーム)	1	定量分析
〃	マイクロタイタープレートリーダー	1	定量分析
〃	テーブルトップ冷却遠心機	1	サンプル調整
〃	マイクロ遠心機	1	サンプル調整
〃	テーブルトップ遠心機	1	サンプル調整

使用区分	機器・器具の名称	台数	使用目的
実習用	冷蔵ショーケース	1	サンプル保存
〃	低温乾燥機	1	実験器具乾燥
〃	低温恒温器	1	遺伝子実験
〃	ディープフリーザー	1	サンプル保存
〃	マイクロミキサー	1	サンプル調整
〃	バイオメディカフリーザー	1	サンプル保存
〃	セミドライプロットイング	1	タンパク質実験
〃	パワーサプライ	1	タンパク質実験
〃	顕微鏡撮影CCD	1	サンプル観察
〃	超音波洗浄機	1	器具洗浄
〃	PCR用一サーマルサイクラー	1	遺伝子実験
〃	HPLC	1	定量分析
〃	蛍光検出器	1	サンプル観察
〃	細胞内カルシウム測定装置	1	サンプル観察
〃	UVトランスイルミネーター	1	遺伝子実験
〃	pHメーター	1	サンプル調整
〃	COOLSTAT	1	サンプル調整
〃	ロータリーエバポレーター	1	サンプル調整
〃	上皿天秤	1	試薬調整
〃	電子分析天秤	1	試薬調整
〃	ペリスタポンプ	1	サンプル調整
〃	ロータリーシェーカー	1	サンプル調整
〃	ホットプレート	1	サンプル調整
〃	卓上振盪恒温槽	1	インキュベーション
〃	卓上恒温槽	1	インキュベーション
〃	クリーンベンチ	1	細胞培養実験
〃	CO <sub>2</sub> インキュベーター	1	細胞培養実験
〃	オートクレーブ	1	細胞培養実験
〃	光学顕微鏡（正立）	1	サンプル観察
〃	蛍光顕微鏡（倒立）	1	サンプル観察
〃	細胞保存用液体窒素タンク	1	細胞培養実験
〃	ゲル撮影装置	1	遺伝子実験
〃	実体顕微鏡	1	サンプル観察
〃	孵卵器	1	サンプル調整